


【表 1】労働不能程度区分	
死亡	労働災害のため死亡したもののことです。即死の場合だけではなく、負傷又は業務上の疾病が直接の原因で死亡したものも含まれます。
① 永久全労働不能	労働災害の結果、労働基準法施行規則に規定された 身体障害等級表 （下の表 2 参照。以下同じ）の 第 1 級～第 3 級 に該当する障害を残すもののことです。
② 永久一部労働不能	労働災害の結果、 身体障害等級表 の 第 4 級～第 14 級 に該当する障害を残すもののことで、次の a、b に該当するものをいいます。 a 身体の一部を完全にそう失ったもの b 身体の一部の機能を永久に廃したもの
③～⑥ 一時労働不能	労働災害の結果、災害発生の翌日以降、少なくとも 1 日以上は負傷のため労働できないが、ある期間を経過すると、身体の一部または身体の一部の機能をそう失せずに治ゆして、 身体障害等級表 の 第 1 級～第 14 級に該当する障害を残さないもの をいいます。

【表 2】身体障害等級表		第 7 級	第 11 級
第 1 級	1 両眼が失明したもの	1 一眼が失明し、他眼の視力が 0.6 以下になったもの	1 両眼の眼球に著しい調節機能障害又は運動障害を残すもの
	2 そしゃく及び言語の機能を廃したもの	2 両耳の聴力が 40 センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの	2 両眼のまぶたに著しい運動障害を残すもの
	3 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、常に介護を要するもの	2の2 一耳の聴力を全く失い、他耳の聴力が1メートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの	3 一眼のまぶたに著しい欠損を残すもの
	4 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、常に介護を要するもの	3 神経系統の機能又は精神に障害を残し、軽易な労務以外の労務に服することができないもの	3の2 10 歯以上に對し歯科補てつを加えたもの
	5 削除	4 削除	3の3 両耳の聴力が1メートル以上の距離では小声を解することができない程度になったもの
	6 両上肢をひじ関節以上で失ったもの	5 胸腹部臓器の機能に障害を残し、軽易な労務以外の労務に服することができないもの	4 一耳の聴力が 40 センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの
	7 両上肢の用を全廃したもの	6 一手の母指を含み三の手指又は母指以外の四の手指を失ったもの	5 せき柱に変形を残すもの
	8 両下肢をひざ関節以上で失ったもの	7 一手の五の手指又は母指を含み四の手指の用を廃したもの	6 一手の示指、中指又は環指を失ったもの
	9 両下肢の用を全廃したもの	8 一足をリスフラン関節以上で失ったもの	7 削除
	第 2 級	9 一上肢に偽関節を残し、著しい運動障害を残すもの	8 一足の第一の足指を含み二以上の足指の用を廃したもの
	1 一眼が失明し、他眼の視力が 0.02 以下になったもの	10 一下肢に偽関節を残し、著しい運動障害を残すもの	9 胸腹部臓器の機能に障害を残し、労務の遂行に相当な程度の支障があるもの
	2 両眼の視力が 0.02 以下になったもの	11 両足の足指の全部の用を廃したもの	第 12 級
	2の2 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、随時介護を要するもの	12 外貌に著しい醜状を残すもの	1 一眼の眼球に著しい調節機能障害又は運動障害を残すもの
第 2 級	2の3 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、随時介護を要するもの	13 両側のこう丸を失ったもの	2 一眼のまぶたに著しい運動障害を残すもの
	3 両上肢を手関節以上で失ったもの	第 8 級	3 7 歯以上に對し歯科補てつを加えたもの
	4 両下肢を足関節以上で失ったもの	1 一眼が失明し、又は一眼の視力が 0.02 以下になったもの	4 一耳の耳かくの大部分を欠損したもの
	第 3 級	2 せき柱に運動障害を残すもの	5 鎖骨、胸骨、ろく骨、肩こう骨又は骨盤骨に著しい変形を残すもの
	1 一眼が失明し、他眼の視力が 0.06 以下になったもの	3 一手の母指を含み二の手指又は母指以外の三の手指を失ったもの	6 一上肢の三大関節中の一関節の機能に障害を残すもの
	2 そしゃく又は言語の機能を廃したもの	4 一手の母指を含み三の手指又は母指以外の四の手指の用を廃したもの	7 一下肢の三大関節中の一関節の機能に障害を残すもの
	3 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、終身労務に服することができないもの	5 一下肢を5センチメートル以上短縮したもの	8の2 一手の小指を失ったもの
	4 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、終身労務に服することができないもの	6 一上肢の三大関節中の一関節の用を廃したもの	9 一手の示指、中指又は環指の用を廃したもの
	5 両手の手指の全部を失ったもの	7 一下肢の三大関節中の一関節の用を廃したもの	10 一足の第二の足指を失ったもの、第二の足指を含み二の足指を失ったもの又は第三の足指以下の三の足指を失ったもの
	第 4 級	8 一上肢に偽関節を残すもの	11 一足の第一の足指又は他の四の足指の用を廃したもの
	1 両眼の視力が 0.06 以下になったもの	9 一下肢に偽関節を残すもの	12 局部にがん固な神経症状を残すもの
	2 そしゃく及び言語の機能に著しい障害を残すもの	10 一足の足指の全部を失ったもの	13 削除
	3 両耳の聴力を全く失ったもの	第 9 級	14 外貌に醜状を残すもの
第 3 級	4 一上肢をひじ関節以上で失ったもの	1 両眼の視力が 0.6 以下になったもの	第 13 級
	5 一下肢をひざ関節以上で失ったもの	2 一眼の視力が 0.06 以下になったもの	1 一眼の視力が 0.6 以下になったもの
	6 両手の手指の全部の用を廃したもの	3 両眼に半盲症、視野狭さく又は視野変状を残すもの	2 一眼に半盲症、視野狭さく又は視野変状を残すもの
	7 両足をリスフラン関節以上で失ったもの	4 両眼のまぶたに著しい欠損を残すもの	2の2 正面視以外で複視を残すもの
	第 5 級	5 鼻を欠損し、その機能に著しい障害を残すもの	3 両眼のまぶたの一部に欠損を残し又はまつげはげを残すもの
	1 一眼が失明し、他眼の視力が 0.1 以下になったもの	6 そしゃく及び言語の機能に障害を残すもの	3の2 5歯以上に對し歯科補てつを加えたもの
	1の2 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、特に軽易な労務以外の労務に服することができないもの	6の2 両耳の聴力が1メートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの	3の3 胸腹部臓器の機能に障害を残すもの
	1の3 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、特に軽易な労務以外の労務に服することができないもの	6の3 一耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になり、他耳の聴力が1メートル以上の距離では普通の話声を解することが困難である程度になったもの	4 一手の小指の用を廃したもの
	2 一上肢を手関節以上で失ったもの	7 一耳の聴力を全く失ったもの	5 一手の母指の指骨の一部を失ったもの
	3 一下肢を足関節以上で失ったもの	7の2 神経系統の機能又は精神に障害を残し、服することができる労務が相当な程度に制限されるもの	6 削除
	4 一上肢の用を全廃したもの	7の3 胸腹部臓器の機能に障害を残し、服することができる労務が相当な程度に制限されるもの	7 削除
	5 一下肢の用を全廃したもの	8 一手の母指又は母指以外の二の手指を失ったもの	8 一下肢を1センチメートル以上短縮したもの
	6 両足の足指の全部を失ったもの	9 一手の母指を含み二の手指又は母指以外の三の手指の用を廃したもの	9 一足の第三の足指以下の一又は二の足指を失ったもの
第 4 級	第 6 級	10 一足の第一の足指を含み二以上の足指を失ったもの	10 一足の第二の足指以下の三の足指の用を廃したもの又は第三の足指以下の三の足指の用を廃したもの
	1 両眼の視力が 0.1 以下になったもの	11 一足の足指の全部の用を廃したもの	第 14 級
	2 そしゃく又は言語の機能に著しい障害を残すもの	11の2 外貌に相当程度の醜状を残すもの	1 一眼のまぶたの一部に欠損を残し、又はまつげはげを残すもの
	3 両耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になったもの	12 生殖器に著しい障害を残すもの	2 3歯以上に對し歯科補てつを加えたもの
	3の2 一耳の聴力を全く失い、他耳の聴力が 40 センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの	第 10 級	2の2 一耳の聴力が1メートル以上の距離では小声を解することができない程度になったもの
	4 せき柱に著しい変形又は運動障害を残すもの	1 一眼の視力が 0.1 以下になったもの	3 上肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの
	5 一上肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの	1の2 正面視で複視を残すもの	4 下肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの
	6 一下肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの	2 そしゃく又は言語の機能に障害を残すもの	5 削除
	7 一手の五の手指又は母指を含み四の手指を失ったもの	3 14 歯以上に對し歯科補てつを加えたもの	6 一手の母指以外の手指の指骨の一部を失ったもの
	第 7 級	3の2 両耳の聴力が1メートル以上の距離では普通の話声を解することが困難である程度になったもの	7 一手の母指以外の手指の遠位指節間関節を屈伸することができなくなったもの
	1 両眼の視力が 0.1 以下になったもの	4 一耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になったもの	8 一足の第三の足指以下の一又は二の足指の用を廃したもの
	2 そしゃく又は言語の機能に著しい障害を残すもの	5 削除	9 局部に神経症状を残すもの
	3 両耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になったもの	6 一手の母指又は母指以外の二の手指の用を廃したもの	10 削除
	3の2 一耳の聴力を全く失い、他耳の聴力が 40 センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になったもの	7 一下肢を3センチメートル以上短縮したもの	
第 5 級	4 せき柱に著しい変形又は運動障害を残すもの	8 一足の第一の足指又は他の四の足指を失ったもの	
	5 一上肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの	9 一上肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの	
	6 一下肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの	10 一下肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの	
	7 一手の五の手指又は母指を含み四の手指を失ったもの		
	第 10 級		
	1 一眼の視力が 0.1 以下になったもの		
	1の2 正面視で複視を残すもの		
	2 そしゃく又は言語の機能に障害を残すもの		
	3 14 歯以上に對し歯科補てつを加えたもの		
	3の2 両耳の聴力が1メートル以上の距離では普通の話声を解することが困難である程度になったもの		
	4 一耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になったもの		
	5 削除		
	6 一手の母指又は母指以外の二の手指の用を廃したもの		
	7 一下肢を3センチメートル以上短縮したもの		
	8 一足の第一の足指又は他の四の足指を失ったもの		
	9 一上肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの		
	10 一下肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの		

備考

- 視力の測定は、万国式視力表による。屈折異常のあるものについてはきょう正視力について測定する。
- 手指を失ったものとは、母指は指節間関節、その他の手指は近位指節間関節以上を失ったものをいう。
- 手指の用を廃したものとは、手指の末節骨の半分以上を失い、又は中手指節関節若しくは近位指節間関節（母指にあっては指節間関節）に著しい運動障害を残すものをいう。
- 足指を失ったものとは、その全部を失ったものをいう。
- 足指の用を廃したものとは、第一の足指は末節骨の半分以上、その他の足指は遠位指節間関節以上を失ったもの又は中足指節関節若しくは近位指節間関節（第一の足指にあっては指節間関節）に著しい運動障害を残すものをいう。



政府統計

令和7年労働災害動向調査
(事業所調査)

厚生労働省

調査票記入要領

必ずお読みください


● 労働災害動向調査は、労働災害（業務上の災害）の発生状況を調べ、労働災害を防止するための資料とすることを目的としています。ご回答いただいた内容は、統計調査以外の目的に使用することはありませんので、本誌中面の記入要領をご参照のうえ、事実をありのままご回答ください。

● 労働災害動向調査における「労働災害」は、労働者が業務遂行中に業務に起因して受けた負傷、疾病および死亡をいいます。ただし、業務上の疾病であっても、遅発性のもの（例：じん肺、鉛中毒症、振動障害など相当期間経過後に発症するもの）、食中毒および感染症（新型コロナウイルス感染症を含む）は除きます。また、通勤途上の負傷、疾病および死亡（いわゆる通勤災害）も労働災害から除きます。

● 労働災害動向調査は「政府統計オンライン調査総合窓口」を利用してオンラインで回答することができます。回答作業が簡素化できますので、ぜひご利用ください。

調査対象期間・・・令和7年1月～12月
提出期日・・・令和8年1月20日

政府統計オンライン調査総合窓口 (<https://www.e-survey.go.jp>) のQRコードはこちら



回答を作成する前に

- この調査は**事業所単位**でのご回答をお願いしています（問1を除く）。企業が「本社」「支社」「工場」「営業所」などで構成されていても、それぞれを単独の事業所とします。調査票記載の所在地の事業所について回答をお願いします。
- 労働災害については、労働基準監督署に提出している「療養補償給付請求書」や「労働者死傷病報告」の控えなどでも確認することができます。できるだけこれらの資料をご確認の上でご回答をお願いします。
- 労働災害が発生していない場合もご回答をお願いします。その場合、「問4. 労働災害の発生状況」は各項目の合計欄に「0（ゼロ）」と記入してください。

オンライン回答について

- 本紙中面および同封の「オンライン調査システム利用ガイド」をご参照のうえご回答ください。
- 休業や廃業などにより**実労働日数及び実労働時間数**が「0（ゼロ）」となる場合はオンライン回答をご利用いただくことができますので、同封の調査票（紙）によりご回答ください。
- オンライン回答によりご回答いただく場合は、同封の調査票（紙）の返送は不要です。

調査票（紙）の郵送による回答について

- 調査票へのご記入は、黒のボールペンまたは黒インクをご使用ください。鉛筆や消せるボールペンは使用しないでください。
- 記入した数値などを訂正する場合は、黒の二重線で消した上で、その近くに正しい数値などを黒字で記入してください。訂正印は必要ありません。数字は算用数字を使用し、単位や位（くらい）にズレや間違いがないよう記入してください。
- 調査票へのご記入後は、記載内容および記入漏れの有無をご確認のうえ、同封の返信用封筒によりご返送ください。

